

山下ようこ、南国・宮崎県訪問（宮崎県宮崎市ならびに綾町）

2014.10.3～6

■10月3日(金)

東京から宮崎へは飛行機で。天気に恵まれ、窓からの美しい景色に、思わずシャッターを切りました。



羽田を飛び立ってすぐ、東京湾から三浦半島、そして相模湾の向こうに富士山が見える!



美しい雲海。



富士山に最接近。



知多半島がくっきりと。地図そのものの形です。



JRの宮崎空港駅から特急にちりんで市内中心部へ移動、宿泊するホテル着。

■10月4日(土)

午前中は国立大学法人宮崎大学訪問



校門を入ると、ヤシ科の植物。南国情緒あふれるキャンパスです。



農学部応用生物科学科教授 國武久登先生。肝臓機能の向上など、医学的効能の研究も進むブルーベリーの葉のお茶の研究に取り組んでいるスペシャリスト。各地での講演やテレビ出演も数多い研究者です。



各地から集められた300もの品種が栽培されているブルーベリー園。



國武先生の案内で、キャンパス内の農場を視察。



ブルーベリー栽培を高齢者や障がい者の社会参加につなげるための活動も実施。教育機関だからこそできる取り組みと言えるでしょう。



これがブルーベリーのお茶畑。1年に2回、葉を摘み取る、とのこと。

宮崎南部の宮崎大学の訪問を終え、再び市の中心部へ。宮崎は、花育が非常に盛んな地域。花育とは、植物栽培や花のアレンジメント、生け花などを通じて、子供たちの情操教育や環境教育を進めようという国の施策。宮崎県では、お花屋さんが積極的に、この花育に取り組んでいます。動物や植物を愛する心優しい子供たちが、たくさん育ちそうですね。その花育に率先して取り組んでいるお花屋さんのうち、2店を訪れました。



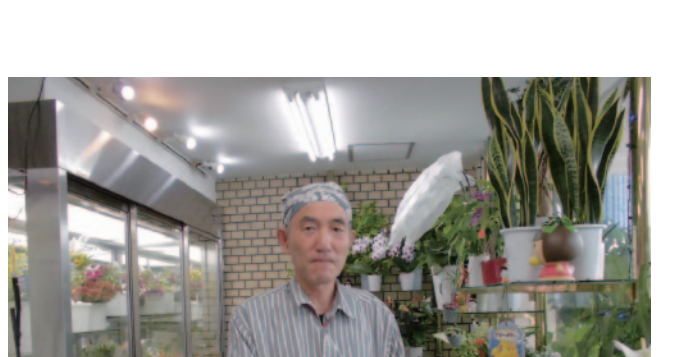
こちらはフラワーショップ カトレア。お店の中には、親子が揃って花のアレンジメントに挑戦するスペースがありました。



代表の平部貴子さん。



こちらは花地蔵。その名の通り、お店の前にはお地蔵さんが、学校での花育の出前授業に取り組んでいます。



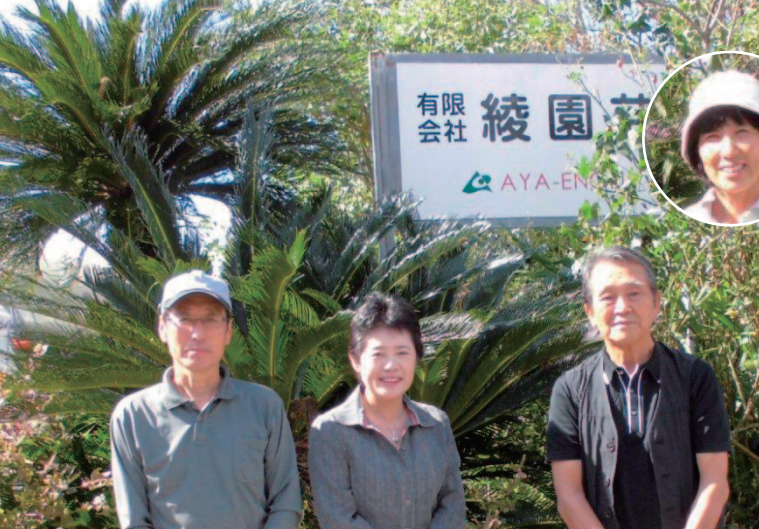
「お地蔵さんは一度だけ願いをかなえてくれる」という言い伝えが店の名の由来、と話す代表の柳田龍之さん。

10月5日(日)

台風18号接近のため、予定変更。もともと、この日に帰京する予定でしたが、飛行機がすべて欠航のため、滞在を1日延ばすことになりました。

10月6日(月)

台風一過の青空が広がる宮崎県内。照葉樹林と有機農業で知られる綾町に行きました。



2012年のフラワー・オブ・ザ・イヤーに輝いた(有)綾園芸訪問。日本の、いえ世界のランキュラスのナンバーワンの品種の数々を開発しています。写真左が、その人、育種家の草野修一さん。写真右は、今回の宮崎訪問をコーディネートくださった元県庁職員で、県の専門技術員として長年にわたり、果樹の営農指導をしてこられた河野喜幸さん、右上の丸枠の中は、草野修一さんの妻で、やはり花の専門家の正子さん。ご夫妻の二人三脚の取り組みが、世界の綾園芸を育て上げたと言えるでしょう。

☆祝!! 訪問の翌週、草野修一さんは内閣総理大臣賞の受賞が決定しました。



こちらはダイヤモンドリリーのハウス。夜空に上がる花火のような鮮やかな花、いくつか赤い花が見えますね。



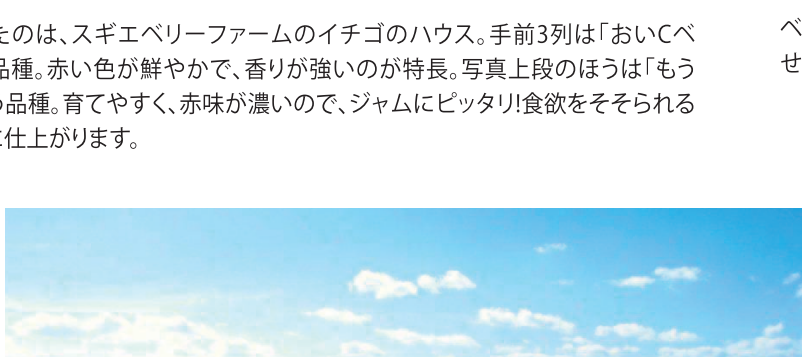
こちらは、ランキュラスの苗。綾園芸で開発されたオリジナルの品種の数々。花の時期が楽しみです。



続いて訪れたのは、スギエバーファームのイチゴのハウス。手前3列は「おいくベリー」という品種。赤い色が鮮やかで、香りが強いのが特長。写真上段のほうは「もういっこ」という品種。育てやすく、赤味が濃いので、ジャムにピッタリ!食欲をそらせるきれいな色に仕上がります。



ベリーファームはストロベリー(イチゴ)だけではなく、ブルーベリーの畑、果樹園です。



次の訪問先への移動中、有機栽培の畑が広がります。その有機栽培の様子をご覧ください。なるために、10年前には天皇皇后両陛下がここを訪れました。



そして最後の訪問先、葡萄園スギヤマ到着。



オーナーの杉山経昌さんは、大学で化学を専攻した理論派。農場に行く前に、事務所でまずデータの説明がありました。



そして葡萄園へ。温度、水等、すべてコンピュータ制御による最先端の栽培です。

宮崎の皆さん、ありがとうございました。